

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079800209
法人名	有限会社 のぞみの里
事業所名	グループホーム ゆうげん荘
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町弁城3719番地3 (電話) 0947 - 22 - 6555

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年1月29日

【情報提供票より】(平成20年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	(光熱費)4,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,167円			

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9名	男性	6名	女性	3名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78.1歳	最低	71歳	最高	84歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人和光会 一本松病院 / ながすえ歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは、主要幹線道路から入った小高い丘の中腹にあり、周辺は民家と雑木林と田畑がある静かな環境の中に位置している。平屋建てで全館床暖房となっている。最近、管理者とケアマネジャーが交代し、新たな感覚と意気込みでこれまでのホームの歴史・経験をふまえながら管理・運営に取り組んでいるところである。町内のグループホームの協議会に積極的にに関わり、協議会を通して行政との連携も強く、そこから得た情報・知識を日々の支援に反映している。運営理念を「笑顔・愛情・尊重」と掲げ、常に職員は勉強し知識を高め、入居者の人格や生きがいを尊重していくという理念のもと、入居者と職員が穏やかに温かく過ごしているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回の指摘事項は、自己評価は職員全員で行うこと・他事業所との交流・市町村との連携等の件で改善に取り組んでおり、改善に向けては前向きな姿勢で取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を作成することで、新規の管理者・ケアマネジャーは、これまでのことを従来の職員に教えてもらうこともあった。そのことが職員間のコミュニケーションを高めることにつながり、自己評価により、日々のケアやサービスを振り返ることができた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域に開かれたホームを目指し、地域の方や入居者の家族・有識者・行政関係者の参加のもと、定期的に2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。ホームの取り組みや意見交換会を行い、サービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者のホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせは「ゆうげん荘だより」で毎月家族に郵送している。金銭管理は個別の出納帳で毎月家族に郵送している。意見箱も設置している。クリスマス会等の行事の後、家族会を開き、意見の交換会を行い、家族の意向などを把握している。家族の苦情・相談ことは全職員に報告し、対応策を話し合っ改善し家族に報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新しい管理者は、地域に開かれたホームを目指し、地域に馴染みになるよう積極的に地域との関わりを大切にしている。将来的に高齢者ケアの中核を目指し、地域への貢献も考慮している。また、散歩の際には、地域の方に気軽に声をかけ、地域主催の祭りなどにも入居者と共に参加している。近隣の方から、野菜や果物の定期的な差し入れがあり、区の役員の方とも交流を図り、良好な関係を築いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	運営理念を「笑顔・愛情・尊敬」とし、常に勉強し知識を高め、入居者の人格や生きがいを尊重し、入居者が楽しく地域に密着した日常生活を送ることが出来るよう支援していくという理念を掲げており、独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	事業所の玄関や事務所内の目に付きやすい場所に掲示しており、月1回の全体会議で運営理念を唱和し、理念にもとづいたケアやサービスの提供ができていくかを確認している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
3	5	地域とのつきあい	新しい管理者は、地域に開かれたホームを目指し、地域に馴染みになるよう積極的に地域との関わりを大切にしている。将来的に高齢者ケアの中核を目指し、地域への貢献も考慮している。また、散歩の際には、地域の方に気軽に声をかけ、地域主催の祭り等にも入居者と共に参加している。近隣の方から、野菜や果物の定期的な差し入れがあり、区の役員の方とも交流を図り、良好な関係を築いている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価を作成することで、新規の管理者・ケアマネージャは、これまでのことを従来の職員に教えてもらうこともあった。そのことが、職員間のコミュニケーションを高めることにつながり、自己評価により、日々のケアやサービスを振り返ることができた。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	地域に開かれたホームを目指し、地域の方や入居者の家族・有識者・行政関係者の参加のもと、定期的に2ヶ月に1回運営推進委員会を開催している。ホームの取り組みや意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。今後は、地域の有識者等、委員は幅広く構成されているので、日にちや時間帯の調整を図り、多くの委員の参加を期待したい。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	町内の事業所で構成する12のグループホーム協議会の会員である。その協議会を通じ、町の介護関係者と介護保険関係法令の解釈や運営上の疑問に対して、指示や助言をいただき、行政との連携を高めている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	一部の職員は理解しているが、職員全体には行き渡っていない。全職員が入居者や家族の質問や相談に対応できるようにしていきたいと考えている。現在、必要とされる人はいないが、加齢と共に必要性は増してくるので、施設内勉強会や外部の研修等に参加していく予定である。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
8	14	家族等への報告	最近家族の面会も多く、その都度、コミュニケーションを図るように努めている。入居者のホームでの暮らしぶりや行事等のお知らせは「ゆうげん荘だより」で毎月家族に郵送している。金銭管理は個別の出納帳で毎月家族に郵送している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	入居時、苦情相談窓口について説明している。意見箱も設置している。クリスマス会等の行事の後、家族会を開き、意見の交換を行い、家族の意向などを把握している。家族の苦情・相談ことは全職員に報告し、対応策を話し合って改善し家族に報告している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	最近1年間は職員の異動はなかったがケアマネジャーの交代があり、1ヶ月重なって勤務している。今後も職員の離職は入居者に不安等、動揺を与えるので離職を最小限に抑えるように最善を尽くしていきたいと考えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	募集や採用に関しては、社会人としての人間性・福祉に対する仕事観や使命感・向上心等を重視している。年齢や性別に左右されることはない。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	定期的なホームの全体会議や日々の申し送り等で人権尊重について話し合っている。特に言葉による拘束は特に注意を促している。今後も有識者等を招き研修会を開き、職員と共に人権教育・啓発活動に取り組みたいと考えている。必要資料をファイルし、職員に周知徹底するために何時でも見ることができるようになり、また、読んだ場合は、サインをするなど方策も期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ホームの理念に掲げているように、「常に勉強をする」ことを重要視している。現在は、施設内の勉強会が主になっている。また、介護の専門性に捉われず、幅広いテーマでの研修や講演会に参加する機会も確保している。各職員が、より上の資格を習得できるように支援している。また、グループホーム協議会にも、交代で職員を参加させ、広い視野と客観的に自分のホームや業務を見直すことができるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	町内12のグループホームによる協議会の定期的な会合に当ホームの職員も参加している。その他、相互訪問や電話等による意見交換や情報交換を行い、交流する機会を持ち、ネットワークを高めている。今後は、地域に向けて認知症の理解を高める等、ネットワークによる活動を期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	当ホーム利用開始前に入居者・家族と十分に意見交換をしたり相談を受けている。入居者にも入居前に何度か訪問をしていただいている。また、職員が入居者を訪問する等、段階的に徐々に馴染んでいただき、納得して入居していただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者と介護職員という立場に捉われず、「人生の先輩」という気持ちをもって日々の暮らしの支援に努めている。職員が入居者に調理を習ったり、生活の知恵や疑問の相談を行う等、日々の暮らしの中で助け合い、支え合う関係を大切にしている。入居者と職員が一体となってレクリエーションの軽体操を行っていた。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との日々の対話やコミュニケーション、家族との交流の中で入居者の希望や意向を把握し、それにそった支援を実行するようにしている。</p>		<p>各個人の意向や希望は、その人の生活史や時代背景からの影響が大きい。新しく入居される方には、入居時に伺っておく。既に入居されている方は対話やコミュニケーション、また、家族からの情報を文書化していくと、その人の個性や感性が明瞭になると考えられる。今後の取り組みに期待したい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望や家族の意向に寄りそえる介護計画の作成に努めている。職員参加の全体会議において、個別の入居者について話し合う時間を設け、職員全員で統一した支援ができる体制づくりに努めている。また、家族を交えたサービス担当者会議を行い、介護計画は日々の支援に反映していくため、「実施表」を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。また、入居者の日々の変化や状態に注意しながら、必要に応じて見直しを行っている。担当者を決め、モニタリング・評価・サービス担当者会議を開催している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者や家族の要望に応じて、入院へのお見舞いや病院への送迎などに応じている。また、家族が入居している場合は、施設への同行を行っている。今後は家族が宿泊できるように対応していきたいと考えている。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前までのかかりつけ医との関係を大事にしている。かかりつけ医の受診等には基本的には職員が付きそことを家族との話し合いで合意を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	ホームを入居者の生活の場として捉えているので、重度化や終末期のことは、職員間での課題となっている。入居者・家族・医師との具体的な話し合いは今後の課題となっている。		重度化・終末期については、職員の認識・知識を高める勉強会を重ねている。今後は、家族・医師等との話し合いを設ける方針である。また、看護職員の採用を行っている。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者のプライベートな居室への入室時は必ずノックと声かけを行っている。日頃の声かけも自尊心やプライド・羞恥心に配慮している。守秘義務にあたっては採用時に誓約書を交換し共通理解を得ている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の個々の状態やニーズに合わせた支援を行っている。食事が定時に取れない方は、時間をずらして摂っていたり、居室で国会討議をテレビで見られている方もあり、一人ひとりのニーズに合わせた取り組みを行っている。今後は、更に「その人らしい暮らし」を支援していくために、その方の生活歴や生育歴・家族関係等を把握していくことが求められる。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	職員と入居者が、同食卓で同献立の食事を取り、決まった席でマイ茶碗・マイ箸を使用し、安心して落ち着いた雰囲気の中で食事を楽しんでいる。献立は入居者の要望を取り入れている。毎日、数名の入居者は食事の準備・配膳・下膳等を行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者のその日その時の体調に合わせ、気持ちよく、ゆったりと入浴できるように心がけている。基本的に個浴とし、その方の入浴状況を把握して、プライバシーに留意しながら必要に応じた介助・見守りを行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の生活歴や現在持っておられる力を活かした役割や趣味を取り入れた支援を行っている。例えば、調理やホームの外回りの清掃や買い物に同行する等、入居者自身が自ら行動できるように、能力を引き出す支援を行っている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	個々の希望や気分によって散歩・買い物・ドライブの外出支援を行っている。一人で散歩される方は気分よく、気軽に出かけられるようにし、職員が何気なく見守り・声かけをしている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望によって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	施錠しないことの重要性を職員全員が認識している。日中はいかなる箇所も施錠してなく、開放的な雰囲気となっている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	消防署立ち入りの避難訓練を実施している。定期的な警察官の立ち寄りも行われている。今後も定期的な避難訓練を行い、職員の危機管理の認識を高めていきたいと考えている。また、ホームの防火設備の見直しを進めている。今後は地域住民の避難訓練の参加など、地域の協力を期待したい。		夜間1人体制で、非常時には近隣の住民の方の協力が不可欠と考える。管理者も交代し、地域の方々と積極的に関わりを持っている。今後は、運営推進委員会や地区の自治会への具体的な働きかけを期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事摂取量・水分摂取量を記録している。個々の状態に合わせた食事量や形状に配慮し、適切な量が摂取できるように支援している。		診察時に医師に尋ねたり、体重の増減・検査データから入居者の栄養状態を把握することが大切である。自分達で作った献立を考察し、必要カロリー・栄養素等をふまえた勉強会や必要によっては専門的なアドバイスを受けることをすすめる。(家族の要望あり)また、栄養不良や脱水症状の勉強会も必要であると考えられる。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	玄関には、季節感を感じる飾り付けや生花が活けてあり、来訪者に心地よい雰囲気となっている。リビングのオープン・キッチンからは、調理の音や匂いにより、家庭と同じ雰囲気を提供している。床暖房で空気もきれいで、静かで、程よい採光で居心地が良い共用空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は、家族の写真・好みの飾り物・馴染みの家具が置かれ、ベッド等のレイアウトもその人らしい暮らしができるように配慮され、個性のある居室となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			